# WE WILL

株主の皆様へ

vol.08

証券コード4188

株式会社三菱ケミカルホールディングス　2020年4月1日 → 2021年3月31日

第16期 期末のご報告

# Jean-Marc Gilson

2021年6月 執行役社長
**ジョンマーク・ギルソン**

| | |
|---|---|
| 1989年8月 | Dow Corning社 入社 |
| 2005年6月 | 同社 Corporate Vice President & General Manager of Specialty Chemicals Business, President Asian Area |
| | 東レ・ダウコーニング(株) Shareholder Representative Director |
| 2009年6月 | 同社 Executive Vice President & General Manager of Specialty Chemicals Business |
| 2011年2月 | Avantor Performance Materials社 Chief Executive Officer |
| 2012年2月 | NuSil Technology社 Vice Chairman & Chief Operating Officer |
| 2014年9月 | Roquette社 Chief Executive Officer |
| 2021年2月 | 当社 エグゼクティブアドバイザー |
| 2021年4月 | 当社 執行役社長(現) |
| 2021年6月 | 当社 取締役 兼 執行役社長(現) |



## CEO Interview

**当社では、2021年4月にジョンマーク・ギルソンが執行役社長に就任し、新たな執行体制となりました。**
**今回は、新社長としての決意や経営方針等をご紹介するため、「8つの質問」に回答してもらいました。**

### Question 1 はじめに、三菱ケミカルホールディングス(MCHC)グループの社長就任にあたって、MCHCの現状をどのように認識されているのでしょうか。

**Answer 1**

まず、化学業界では誰でも知っている会社の一員になれたことを大変誇らしく思います。MCHCには数多くの素晴らしい製品があり、多くのお客様に満足いただいています。
ただ、長期にわたる業績不振と株価の低迷という厳しい現実は認識しています。残念ながら、当期(2020年4月1日～2021年3月31日)もセグメントの大半が減収減益となりました。
しかし、産業ガスや機能商品といった事業は、厳しい局面でも底堅く安定した結果を残しました。人材や技術等、グループとしての優れた基盤をもとに、MCHCを変革し、収益を大幅に改善できると考えています。

### Question 2 今年度、そして数年先を見据えたMCHCのめざす姿について教えてください。

**Answer 2**

今年度の目標はまず、前年度から業績を大幅に回復させ、債務水準を低下させることです。結果として、ネットD/Eレシオを1.5倍に近づけます。業績予想として公表したとおり売上収益3兆6,600億円、コア営業利益2,300億円をめざします。
そして、2025年度までの中期経営計画において成長戦略を策定し、継続的に業績を向上させ、株主や投資家の皆様の信頼回復に努めます。それによって、地球環境を守り、二酸化炭素排出量をゼロに近づけるという根幹に関わる課題に取り組む体制を整えていきます。

### Question 3 そのような中長期的な課題の解決は、MCHCグループが掲げる「KAITEKI」の実現だと思います。「KAITEKI」についての考えをお聞かせください。

**Answer 3**

「KAITEKI」は、まさに哲学であり、素晴らしい理想です。人々のウェルビーイングに貢献し、私たちの住む地球を守るという、シンプルであると同時に、インスピレーションに富んだものです。一方、地球環境を守り、二酸化炭素の排出量をゼロに近づけることは本当に大きな課題です。この変革を成し遂げるためには、多くのリソースと資金が必要となります。これらの変革に向け、体制を整えるためには、継続的に収益を向上させることが不可欠です。さらに、理念は事実に基づく必要があります。私たちの強みに照らし合わせて、重点分野はどこか、どの市場セグメントで理念を実現していくのかを今後明確にしたいと考えています。

## Question 4

**二酸化炭素排出量、海洋廃棄プラスチックと、化学業界には厳しい目が向けられています。化学業界の未来は明るいのでしょうか。また、本当にこれらの課題を解決できるのでしょうか。**

### Answer 4

これは化学業界にとって大きな挑戦です。私たちは、より多くの製品をリサイクルし、製造過程で使うエネルギーを削減していくことを求められています。しかし、化学業界なしに世界は存続できません。私たちは、ありふれた原料から多様な素晴らしい製品を生み出しています。たとえば、病院のMRIの部材や透明なプラスチックのパーティションを作り、人命を救っています。

私は、この「新しい何か」を生み出す力、化学の創造力が好きです。二酸化炭素排出量削減は必須ですが、化学産業はこれからも多くの製品とともに素晴らしい価値を皆様に提供できると信じています。

## Question 5

**これまでも多くの企業で経営に携わってこられましたが、会社経営において重きを置かれていることをお聞かせください。**

### Answer 5

会社には、「株主」「顧客」「従業員」「社会」の4つの要素が関わっており、その人々が満足して、うまくいっていれば、会社全体もうまくいくと考えています。先ほどの回答と重複しますが、利益水準を向上させ、株主の皆様には、投資に対してご満足いただけるようにします。また、社会については、根本的な課題に真摯に取り組み貢献していきたいと考えています。お客様という点では、サービスの質は素晴らしいと考えていますが、私たちもお客様の成功に貢献しながら、共に成長する必要があります。私たちが再び成長軌道に乗るために非常に重要な課題です。

従業員については、その満足度が企業経営の成否です。やりがいのある仕事を従業員に提供できているかどうかは、経営陣の責任です。働く人々が、自分は会社の大切な一員であり、日々の業務を通して、組織に貢献していると感じられる、つまり「パーパス（意味）」が実感できるからこそ、毎朝の出勤が楽しい。従業員がそのように思える企業は、経営がうまくいっているのです。

## Question 6

**先ほどの「従業員」という点にも関わりますが、MCHCの企業文化をどのように考えられていますか。**

### Answer 6

私は、これまで、米国、欧州、日本で働いてきました。日本では、コミュニティへの帰属意識が高く、組織力があり、非常に規律正しい一方、柔軟性や創造性に欠けていると思うところもあります。パフォーマンスよりも人間関係や年功を重視する傾向もあります。大切なのはバランスです。いずれかが正しいという話ではなく、長所を伸ばしつつ、短所を矯め、適切なバランスを取ることが重要なのです。その意味で、異なる文化圏で働いてきた私にはアドバンテージがあると考えています。

また、多くの場合、上司がすべてを決めるヒエラルキーのあるシステムを改め、従業員に決定権と成功する自由を与えることが必要だと考えています。多様性と男女平等を強力に推進し、働く誰もが平等に成功する機会を持てるように力を尽くします。

最後に、当社で働く人々に自信と楽観主義をもたらしたいです。非常に優秀で献身的な人材が揃っている訳ですから、自信を持って楽観的に進むことができれば、必ず成功すると信じています。

## Question 7

**先ほどの自信と楽観主義に加え、あなたの仕事のスタイルはどういうものでしょうか。**

### Answer 7

私が生まれたベルギーで育った人には柔軟で親しみやすい人が多く、私も同じだと思っています。社長室のドアは常にオープンですし、CEOや社長といった肩書ではなく、「ジョンマーク」と名前で呼んでほしいですね。私も普通の人間ですし、社内では誰でも気兼ねなく話しかけてもらって構いません。その一方で、私は負けず嫌いです。どんな難題であっても、負けるのは嫌いですし、必ず勝ちたいんです。また、狙いを定めて、集中するタイプでもあります。何かを行う際には、的を絞り込んで注力します。ビジネスでも、しっかりと管理できる範囲内の活動に集中するようにしています。そして、非常に透明性の高い人間だと思います。私自身、真実を伝えますし、他の人にも率直に、自分の考えや意見を述べてほしいですね。隠し事は好きではありません。経営のスタイルという点でこれらはすべてつながっています。お互いに親しみやすい、話しかけやすい存在であれば、非常に強力なチームが作れます。強いチームで、目的を絞り込み、透明性の高いコミュニケーションが取れていれば、競争力も高くなり、そのような強いチームこそ必ず勝てると思っています。

## Question 8

**最後に、株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。**

### Answer 8

MCHCグループは素晴らしい基盤に恵まれた会社です。私としては、今後数年間、ベストを尽くして、明確な戦略とフォーカスに基づき変革を成し遂げ、さらに良い会社にしていきたいと思っています。その中で、当社の取り組み、今後の方向性と戦略について、できる限り明確にそしてシンプルな形でお伝えしてまいります。

株主の皆様に、MCHCの株を持っていてよかったと誇りに思っていただける会社をめざします。将来的には、長期保有の利益を確信いただけるように企業価値向上に取り組んでまいりますので、今後とも変わらぬご支援とご理解をお願いいたします。

# 取締役対談

**コーポレート・ガバナンスの重要性がますます高まる中、指名委員会等設置会社である当社の取締役会のあり方と新社長の選任プロセス等について、菊池社外取締役と藤原取締役兼執行役常務が対談いたしました。**

## 持株会社、指名委員会等設置会社および取締役会のあり方について

**藤原**：菊池取締役が当社の社外取締役に就任されてから約2年になりますが、まず、菊池取締役のご紹介をさせてください。大学卒業後は銀行に入られましたよね。

**菊池**：はい。私はちょうど男女雇用機会均等法が施行された年に当時の㈱第一勧業銀行（現在の㈱みずほ銀行）に入社しました。その後、弁護士登録をして、いくつかの弁護士事務所やJPモルガン証券㈱（社内弁護士）を経て、今の事務所でパートナー弁護士になりました。当社の社外取締役には2019年に就任しました。

**藤原**：当社に対する印象はいかがでしたか。

**菊池**：これまで弁護士としてのお客様に化学会社はありませんでしたので、就任当初は、化学会社の事業についてあまり詳しくなく、漠然と三菱グループの中の重厚長大な化学会社という印象を持っていました。

**藤原**：化学産業の事業内容は非常に分かりにくく、個別の事業について社外取締役の方にご理解いただくことは大変ですが、一方で、当社は持株会社であり、その役割はグループ全体のかじ取りを行うことで、具体的な事業内容よりもポートフォリオ・マネジメントの観点から企業価値の向上を図ることにあるので、社外取締役の方々からのご意見等も頂戴しやすいのではないかと思います。

**菊池**：おっしゃるとおりだと思います。また、当社は指名委員会等設置会社でもあり、業務執行の決定の大部分を執行役に委ねていますので、取締役会で定めた基本方針を受けて、執行役や事業会社がきちんと執行しているかどうかを監督することが最も重要な役割だと思っています。

**藤原**：持株会社であり、指名委員会等設置会社でもある当社がその役割を十分に果たすためには、取締役会のあり方、たとえば、取締役会で何を議論するかが非常に重要かと思いますが、その点はどのようにお考えでしょうか。

**菊池**：指名委員会等設置会社における取締役会の役割は、経営の基本的な方向性を決めること、あとは、代表執行役の選定・執行役の選任、各委員会の委員を決めるなどの監督機能が中心になるので、極端かもしれませんが、取締役会での議論もそれらのことに絞ってよいのではないかと思っています。

**藤原**：持株会社の取締役会としては、大局的な見地から判断し、あまり事業の細かいことまで監視、監督する必要はないということですよね。ただし、各事業のパフォーマンス次第では、軌道修正を求めることも取締役会としての重要な役割だろうと思います。また、取締役会のあり方という意味では、取締役会の構成も重要かと思いますが、菊池取締役には、弁護士としてのご見識に基づき、取締役会でいろいろと、特にいわゆる「守りのガバナンス」の観点からご発言いただいています。

**菊池**：弁護士は、法律的な知識、経験に加え、公正かつ客観的な視点で物事を見ることができるのではないかと思っているので、経営者出身の方だけでなく、私のような弁護士が取締役会のメンバーになることにも一定の意義があると考えています。また、取締役会の構成という意味では、株主に対するコミットとか、株価に対する反応度といった観点から、上場企業の経営を経験された方（外国の方も良いと思います）に社外取締役として来ていただいたり、あるいは、今度のコーポレートガバナンス・コード改訂案にもあるとおり、もっと年齢の幅があってもよいかと思います。

## ジョンマーク・ギルソン社長について

**藤原**：菊池取締役は指名委員でもあり、新社長の選任プロセスに関わられました。指名委員の皆さんもご苦労が多かったと思いますが、今回のプロセスを振り返っていかがですか。

**菊池**：コロナ禍にもかかわらず、また極めて時間も限られていた中でしたが、社外からも候補を募り、ジョンマーク・ギルソン氏を社長に選任されたことは大英断だったと思います。この会社、本気なんだなと思いました。

**藤原**：選任にあたっては、どこがポイントでしたか。

**菊池**：私には金融のバックグラウンドがありますので、プライベートエクイティファンドでの経験を持つジョンマーク・ギルソン社長と考え方が似ているのかなと感じました。この会社には、ファイナンス的な視点を持つ社長が必要だと思っていたので、社長選任のプロセスの中で、彼が事実を自分で調べて、いろいろと数字やデータに基づく根拠のある資料をもとにきっちりと説明する姿は好印象でしたし、頼もしく映りました。

**藤原**：社長に就任してからも、彼の言動を見ていると、本当に数字やデータを重要視していることが分かるのですが、社外取締役として、あるいは指名委員として、今後、ジョンマーク・ギルソン社長に期待することを教えてください。

**菊池**：持株会社である当社の社長を務めるには、大局的な視点を持って、常にグループ全体を俯瞰することが肝要ではないかと感じています。ジョンマーク・ギルソン社長にはそういう視点を持ってもらいたいと思います。それから、私もそうですが、彼はとにかく論理がシンプルであることが好きだと、そして、透明性が重要だとも言っているので、とにかくシンプルな経営をめざし、その中で執行の状況をつまびらかに報告してほしいと思います。

**藤原**：ジョンマーク・ギルソン社長は、自分は取締役会、ひいては株主に対して責任を負っている以上、リポート・トゥ・ボード、すなわち取締役会への報告を適時適切に行わなければならないと言っていて、われわれ取締役会としても支えやすいですよね。

**菊池**：はい、私もそう思います。今後ジョンマーク・ギルソン社長がポートフォリオ改革を果断に進めていくにあたって、必要に応じてアドバイスするなどして、取締役会としてサポートできればと思います。また、会社として、公平なCEO評価や報酬制度などの体制整備を進めることも、間接的には社長のサポートに資することになると思います。

## 株主の皆様へ

**藤原**：それでは最後に、株主の皆様へ一言メッセージを頂けますでしょうか。

**菊池**：4月にジョンマーク・ギルソン社長が就任してから様々な事がらが変わりつつあるという実感があります。私も取締役会の一員として、ジョンマーク・ギルソン社長をサポートし、また、経営を適切に監督することで、当社の企業価値の向上に貢献したいと思います。

**社外取締役　菊池きよみ**

1986年4月　（株）第一勧業銀行（現（株）みずほ銀行）入社
1999年4月　弁護士登録　あさひ法律事務所
2002年9月　アレン・アンド・オーヴェリー法律事務所（ロンドン）
2003年5月　ニューヨーク州弁護士資格取得
2003年10月　あさひ法律事務所
2004年9月　太陽法律事務所（現 ポールヘイスティングス法律事務所・外国法共同事業）
2006年9月　JPモルガン証券（株）
2008年4月　TMI総合法律事務所（現）
2019年6月　当社社外取締役（現）

Kiyomi Kikuchi

**取締役兼執行役常務　藤原 謙**

1984年4月　三菱化成工業（株）入社
2015年4月　当社執行役員
2017年4月　三菱ケミカル（株）執行役員
2018年4月　当社執行役常務
2018年6月　当社取締役 兼 執行役常務（現）

Ken Fujiwara

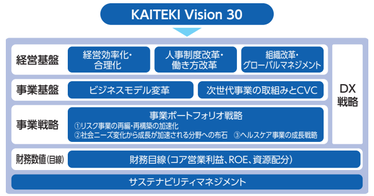
# TOPICS

トピックス

㈱三菱ケミカルホールディングスは、様々な施策に取り組んでいます。
ここでは、当社グループの主なトピックスをご紹介します。

## 新中期経営計画『APTSIS 25』Step1を策定

㈱三菱ケミカルホールディングスは、昨年2月に公表した中長期経営基本戦略である『KAITEKI Vision 30』(KV30)に基づき、本年度からスタートする新中期経営計画『APTSIS 25』Step 1を策定しました。新型コロナウイルス感染症による影響については、一部の産業に回復の基調が見られ、また、日本を含む各国においてワクチン投与が開始されるという状況下、早期の経済正常化に対する市場の期待はあるものの、変異株の発現等も認められており、依然不透明な状況が続くと考えています。こうした認識のもと、『APTSIS 25』の対象期間である2021年度からの5年間をウィズコロナのStep 1とアフターコロナのStep 2の2段階に分け、Step 1(対象期間:2021年度～2022年度)における主要施策を策定しました。Step 2(対象期間:2023年度～2025年度)の計画については、2022年度に策定する予定です。




## 有機と無機のハイブリッドケミカルメーカージェレスト社を買収

三菱ケミカル㈱は、昨年10月に米国子会社のMitsubishi Chemical America社を通じて、米国でケイ素化合物や金属化合物を手掛けるメーカー、ジェレスト社を買収しました。

同社は、コンタクトレンズ原料や抗菌剤などのケイ素化合物、半導体プリカーサー等に用いられる金属化合物等の領域において、高度な分子設計・合成技術を保有しています。

三菱ケミカル㈱はこれまで、主にカーボンケミカルの分野において高度な技術を蓄積してきており、ジェレスト社の広範囲なケイ素化合物、金属化合物などの知見を組み合わせることで、両社の素材の設計力、提供可能なソリューションの幅を大きく拡充いたします。加えて、ジェレスト社が培ってきた技術と三菱ケミカル㈱が持つ経営資源や顧客ネットワークの組み合わせにより、デジタル社会基盤の発展や医療進化など将来の社会課題を起点とする市場ニーズに対して、これまで以上に貢献していきます。

## 新型コロナウイルス感染症のワクチン開発

田辺三菱製薬㈱のカナダ子会社であるメディカゴ社は、新型コロナウイルス感染症の予防をめざして植物由来のウイルス様粒子(VLP※1)ワクチン(開発番号:MT-2766)の開発を進めています。

MT-2766は、現在、第2/3相臨床試験の第3相パートをカナダ、米国、英国、ブラジル等で実施しており、今後も順次実施国を追加する予定です。また、米国では、FDA(米国食品医薬品局)からファスト・トラック※2指定を受け、カナダでは、カナダ保健省において、ローリングサブミッション※3の審査が開始されています。

新型コロナウイルス感染症予防のためのVLPワクチンを社会の皆様に一日も早くお届けできるよう、MT-2766の開発を着実に推進し、喫緊の社会課題である新型コロナウイルス感染症の予防に、より一層貢献していきます。

※1 VLP…Virus Like Particle(ウイルス様粒子)の略称です。
※2 ファスト・トラック…アンメット・メディカル・ニーズに対応する可能性のある重篤な疾患の治療または予防を目的とした新薬およびワクチンをFDAが優先的に審査する制度。また、製造販売承認申請の内容について、申請前から継続して部分的な審査を行うことができます。
※3 ローリングサブミッション…申請から承認に至るまでの時間を短縮するために、段階的に提出する資料を、カナダ保健省が全データの提出を待たずに順次審査を進めることができる制度。

## Muse細胞製品の開発を推進

私たちの身体の細胞は、日々どこかで壊れたり、死んだりしていますが、直ぐに身体に異常をきたす訳ではありません。それは普段から私たちの身体の中で傷んだところを修復する仕組みを持っているからです。

2010年に東北大学の出澤真理教授のグループにより、Muse※細胞は上記の身体をメンテナンスする仕組みにおいて重要な役割を果たしていると報告されており、現在、㈱生命科学インスティテュートは、このMuse細胞製品(開発コード:CL2020)の開発を進めております。Muse細胞は、血管の中に投与するだけで、傷んだ臓器に自動的に移動していき(遊走能)、必要な種類の細胞に変化し(多能性)、修復するとされ、また、元々生体内に存在するため、安全性への懸念が小さく、腫瘍化のリスクも低いとされています。

現在、6つの適応症で臨床試験を実施しており、今後も規制当局と相談しながら安全性・有効性の検証を進め、事業化に向けて臨床試験等を推進していきます。

| 適応症 | 開発段階 | 開発地域 |
|---|---|---|
| 急性心筋梗塞 | Phase Ⅱ/Ⅲ | 日本 |
| 脳梗塞 | Phase Ⅰ/Ⅱ | |
| 表皮水疱症 | Phase Ⅰ/Ⅱ | |
| 脊髄損傷 | Phase Ⅰ/Ⅱ | |
| 筋萎縮性側索硬化症 | Phase Ⅰ/Ⅱ | |
| 急性呼吸窮迫症候群 | Phase Ⅱ/Ⅲ | |

※Muse…Multilineage-differentiating Stress Enduring cells



# KAITEKIぴっくあっぷ Vol.08

㈱三菱ケミカルホールディングスが、人・社会・地球の持続的発展への貢献をめざして提唱している「KAITEKI」。
「KAITEKIぴっくあっぷ」と名付けたこのコーナーでは、KAITEKIのもとで推進している様々な活動をご紹介します。

## ●KAITEKI実現のために取り組む重要課題(マテリアリティ)

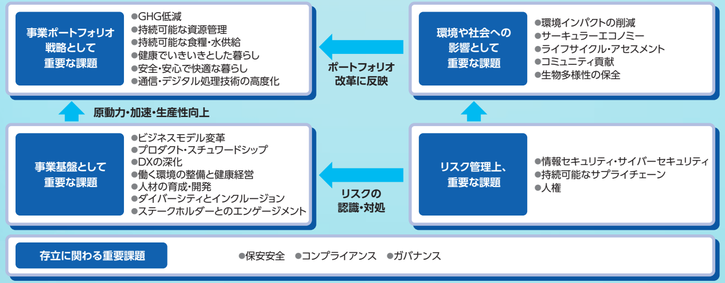
三菱ケミカルホールディングスグループは、2030年にめざす姿として策定したKAITEKI Vision 30(KV30)の目標達成のため、取り組むべき重要課題(マテリアリティ)を設定しています。

マテリアリティとは、当社グループと社内外の関係者(ステークホルダー)にとって「重要だと考えること」を意味し、具体的には、会社の方針や戦略、事業への影響度や、社会の関心や社会への影響度などの側面から見た重要事項を特定したものをいいます。

当社グループでは、従来、当社グループとステークホルダー各々の重要度に応じてマテリアリティの特定・優先順位付けを行っていましたが、新たな中期経営計画を策定するにあたり見直しを行いました。

KV30で設定した当社グループが取り組むべき社会課題やメガトレンド、持続可能な開発目標(SDGs)等を踏まえ、24の重要課題を特定し、特定した重要課題は等しく重要であるとの認識のもと、「事業ポートフォリオ戦略」、「事業基盤」、「環境や社会への影響」、「リスク管理」、「存立に関わるもの」の5つのカテゴリーに分類し、それぞれのカテゴリーがどのように関わりあうのか、その関係性を示すこととしました。

当社グループは、マテリアリティへの取り組みを通じて、持続可能な成長をめざすとともに、社会課題の解決を事業機会と位置付け、企業価値の向上を図っていきます。



## 連結業績の概要

# 上期を中心に新型コロナウイルス感染症の世界的大流行の影響を受けたものの、下期以降は経済活動の回復とともに国内外の需要が持ち直し、全般的に回復基調となりました。

### 上期を中心に新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けるものの、下期はケミカルズセグメントを中心に市況が上昇

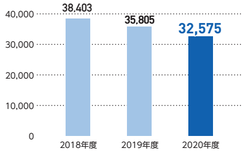
当期の連結業績は、売上収益は3兆2,575億円(前期比3,230億円減)となり、利益面では、コア営業利益は1,747億円(同201億円減)、営業利益は475億円(同968億円減)となり、親会社の所有者に帰属する当期利益は76億円の損失(同617億円減)となりました。

### ネットD/Eレシオが0.06ポイント下降

資産合計は、新型コロナウイルス感染症の影響による不測の事態への備え等により現金及び現金同等物の確保等で、5兆2,872億円(前期末比1,551億円増)となり、負債合計は、円安の進行に伴う在外連結子会社の負債の円貨換算額の増加等により、3兆7,161億円(同348億円増)となりました。また、資本合計は、在外営業活動体の換算差額の増加等により、1兆5,711億円(同1,203億円増)となりました。この結果、ROEは△0.6%となり、ネットD/Eレシオは1.73となりました。

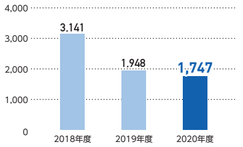
■売上収益　単位:億円

**32,575億円**



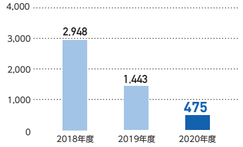

■コア営業利益※　単位:億円

**1,747億円**



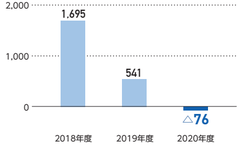

■営業利益　単位:億円

**475億円**



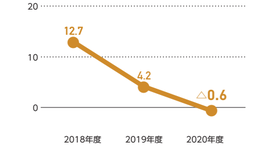

■親会社の所有者に帰属する当期利益　単位:億円

**△76億円**



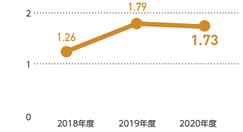

●ROE※　単位:%

**△0.6%**




●ネットD/E(デット/エクイティ)レシオ※

**1.73**




※グラフは国際会計基準(IFRS)に準拠した用語で表示しております。
※コア営業利益とは、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いた経常的な利益のことです。
※ROE=親会社の所有者に帰属する当期利益÷親会社所有者帰属持分(期首期末平均)
※ネットD/Eレシオ=[有利子負債(割引手形を含む)−(現金・現金同等物+手元運用資金残高)]÷親会社所有者帰属持分

## 連結財務諸表の概要(国際会計基準(IFRS)に準拠)

### 連結財政状態計算書 (単位:億円)

| 勘定科目 | 当期末 2021年3月31日現在 | 前期末 2020年3月31日現在 |
|---|---|---|
| (資産) | | |
| 現金及び現金同等物 | 3,496 | 2,282 |
| 営業債権 | 7,164 | 6,985 |
| 棚卸資産 | 5,765 | 6,065 |
| その他 | 1,550 | 2,161 |
| **流動資産** | **17,975** | **17,493** |
| 有形固定資産 | 18,139 | 17,422 |
| のれん | 6,719 | 6,168 |
| 無形資産 | 4,553 | 5,106 |
| 持分法で会計処理されている投資 | 1,620 | 1,699 |
| その他の金融資産 | 2,512 | 2,265 |
| その他 | 1,354 | 1,168 |
| **非流動資産** | **34,897** | **33,828** |
| **資産合計** Point 1 | **52,872** | **51,321** |

| 勘定科目 | 当期末 2021年3月31日現在 | 前期末 2020年3月31日現在 |
|---|---|---|
| (負債) | | |
| 有利子負債 | 24,824 | 23,881 |
| 営業債務 | 3,823 | 3,981 |
| その他 | 8,514 | 8,951 |
| **負債合計** | **37,161** | **36,813** |
| (資本) | | |
| 資本金 | 500 | 500 |
| 資本剰余金 | 1,797 | 1,767 |
| 自己株式 | △633 | △635 |
| 利益剰余金 | 10,601 | 10,713 |
| その他の資本の構成要素 | 98 | △643 |
| 親会社の所有者に帰属する持分合計 | 12,363 | 11,702 |
| 非支配持分 | 3,348 | 2,806 |
| **資本合計** | **15,711** | **14,508** |
| **負債及び資本合計** | **52,872** | **51,321** |

### 連結損益計算書 (単位:億円)

| | 勘定科目 | 当期 2020年4月1日から2021年3月31日まで | 前期 2019年4月1日から2020年3月31日まで |
|---|---|---|---|
| 継続事業 | **売上収益** | **32,575** | **35,805** |
| | **コア営業利益** | **1,747** | **1,948** |
| | 非経常項目 Point 2 | △1,272 | △505 |
| | **営業利益** | **475** | **1,443** |
| | 金融収益・費用 | △146 | △223 |
| | (内、受取配当金) | (43) | (42) |
| | (内、為替差損益) | (24) | (△37) |
| | **税引前利益** | **329** | **1,220** |
| | 法人所得税 | △102 | △523 |
| | **継続事業からの当期利益** | **227** | **697** |
| 非継続事業からの当期利益 | | - | 169 |
| **当期利益** | | **227** | **866** |
| **親会社の所有者に帰属する当期利益(△損失)** | | △76 | 541 |
| 非支配持分に帰属する当期利益 | | 303 | 325 |

### 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:億円)

| 勘定科目 | 当期 2020年4月1日から2021年3月31日まで | 前期 2019年4月1日から2020年3月31日まで |
|---|---|---|
| 税前損益 | 329 | 1,476 |
| 減価償却費 | 2,438 | 2,398 |
| 棚卸資産 | 446 | 71 |
| 営業債権債務他 Point 3 | 1,458 | 575 |
| **営業活動によるキャッシュ・フロー** | **4,671** | **4,520** |
| 設備投資 | △2,570 | △2,361 |
| 資産売却 | 308 | 303 |
| 投融資他 | 92 | 1,182 |
| **投資活動によるキャッシュ・フロー** | **△2,170** | **△876** |
| 有利子負債 | △44 | 373 |
| 子会社株式追加取得 | △988 | △3,998 |
| 配当他 | △396 | △880 |
| **財務活動によるキャッシュ・フロー** | **△1,428** | **△4,505** |
| **現金及び現金同等物の増減** | **1,073** | **△861** |
| **為替換算差等** | **141** | **△72** |
| **現金・現金同等物の期首残高** | **2,282** | **3,215** |
| **現金・現金同等物の期末残高** | **3,496** | **2,282** |

### 連結持分変動計算書 当期[2020年4月1日から2021年3月31日まで] (単位:億円)

| | 親会社の所有者に帰属する持分 | | | | | | 非支配持分 | 資本合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 自己株式 | 利益剰余金 | その他の資本の構成要素 | 合計 | | |
| 2020年4月1日残高 | 500 | 1,767 | △635 | 10,713 | △643 | 11,702 | 2,806 | 14,508 |
| 当期利益(△損失) | | | | △76 | | △76 | 303 | 227 |
| その他の包括利益 | | | | | 1,046 | 1,046 | 332 | 1,378 |
| 当期包括利益 | | | | △76 | 1,046 | 970 | 635 | 1,605 |
| 自己株式の変動 | | △2 | 2 | | | 0 | | 0 |
| 配当 | | | | △341 | | △341 | △110 | △451 |
| 支配継続子会社に対する持分変動 | | 8 | | | | 8 | 3 | 11 |
| その他の資本の構成要素から利益剰余金への振替 | | | | 304 | △304 | | | |
| その他 | | 24 | | 1 | △1 | 24 | 14 | 38 |
| 所有者との取引額等合計 | | 30 | 2 | △36 | △305 | △309 | △93 | △402 |
| 2021年3月31日残高 | 500 | 1,797 | △633 | 10,601 | 98 | 12,363 | 3,348 | 15,711 |

**Point 1 資産合計**

円安の進行に伴い、在外連結子会社の資産の円貨換算額が増加しています。

**Point 2 非経常項目**

非経常項目は、無形資産及び有形固定資産の減損損失の計上により増加しています。

**Point 3 営業活動によるキャッシュ・フロー**

減損損失等の非資金項目の影響が大きく、税前損益は減益となったものの、営業活動によるキャッシュ・フローは前期並みを確保しました。

## 会社概要

商　　号　株式会社三菱ケミカルホールディングス
(英文社名:Mitsubishi Chemical Holdings Corporation)
本店所在地　〒100-8251
東京都千代田区丸の内一丁目1番1号(パレスビル)
電　　話　03-6748-7200
資 本 金　500億円

## 取締役 (2021年6月24日現在)

| | | | |
|---|---|---|---|
| ｼﾞｮﾝﾏｰｸ･ｷﾞﾙｿﾝ | 取締役 | 橋本　孝之 | 社外取締役 |
| 伊達　英文 | 取締役 | 程　　近智 | 社外取締役 |
| 藤原　　謙 | 取締役 | 菊池きよみ | 社外取締役 |
| 小林　喜光 | 取締役 | 山田　辰己 | 社外取締役 |
| ｸﾞﾚﾝ･ﾌﾚﾃﾞﾘｸｿﾝ | 取締役 | 政井　貴子※ | 社外取締役 |
| 小林　　茂 | 取締役 | | |
| 片山　博史 | 取締役 | | |

※政井貴子氏は、2021年7月1日に就任予定です。

## 執行役 (2021年6月24日現在)

ｼﾞｮﾝﾏｰｸ･ｷﾞﾙｿﾝ　代表執行役　執行役社長
池川　喜洋　代表執行役　執行役常務
(経営戦略、生産技術、マーケティング&ブランディング)
ﾗﾘｰ･ﾏｲｸｽﾅｰ　執行役常務(先端技術・事業開発)
伊達　英文　執行役常務　最高財務責任者
(経営管理、情報システム、IR)
藤原　　謙　執行役常務　グループ・コンプライアンス推進統括執行役
(コーポレート・セクレタリー、法務、総務、人事、内部統制、海外統括会社)
羽深　成樹　執行役(政策・渉外、広報)

## 株式の状況 (2021年3月31日現在)

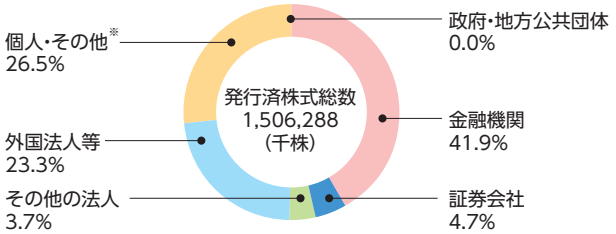
発行可能株式総数　6,000,000,000株
発行済株式総数　1,506,288,107株
株主総数　273,758名

## 大株主 (2021年3月31日現在)

| 株主名 | 持株数(千株) | 出資比率(%) |
|---|---|---|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口 | 126,731 | 8.9 |
| 株式会社日本カストディ銀行信託口 | 82,101 | 5.8 |
| 明治安田生命保険相互会社 | 64,389 | 4.5 |
| 日本生命保険相互会社 | 42,509 | 3.0 |
| 株式会社日本カストディ銀行信託口7 | 26,246 | 1.8 |
| 株式会社日本カストディ銀行信託口4 | 23,652 | 1.7 |
| 株式会社三菱UFJ銀行 | 20,553 | 1.4 |
| STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234 | 20,298 | 1.4 |
| 株式会社日本カストディ銀行信託口5 | 20,075 | 1.4 |
| 太陽生命保険株式会社 | 18,838 | 1.3 |

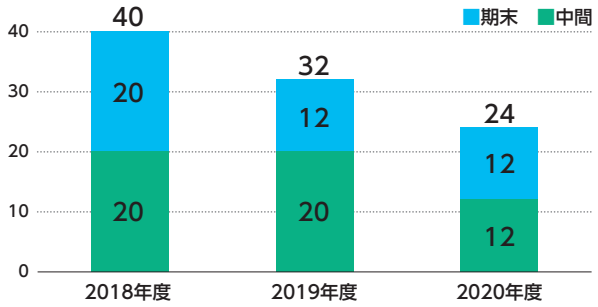
※上記のほか、当社が自己株式として82,871千株を保有しておりますが、上記出資比率は自己株式を控除して計算しております。

## 所有者別株式分布の状況 (2021年3月31日現在)




※「個人・その他」には、当社の自己株式としての保有分(5.5%)が含まれております。

## 1株当り配当金 (円)




## 株主メモ

●事業年度　4月1日から翌年3月31日まで
●定時株主総会　6月
●株主確定基準日　① 定時株主総会 3月31日
② 期末配当金　3月31日
③ 中間配当金　9月30日
※その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。
●公告の方法　電子公告
※ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
https://www.mitsubishichem-hd.co.jp/ir/index.html
●株主名簿管理人　三菱UFJ信託銀行株式会社
●同事務取扱場所　〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
●郵便物送付先及びお問い合わせ先
〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
0120-232-711(通話料無料)

当社ホームページをご活用ください。
https://www.mitsubishichem-hd.co.jp/
当社ホームページでは、プレスリリースや中期経営計画、決算情報等を掲載しておりますので、ぜひご活用ください。

三菱ケミカルホールディングス　検索

携帯電話やスマートフォンなどから、QRコードを読み取ってアクセスすることもできます。

株式会社三菱ケミカルホールディングス

VEGETABLE OIL INK
FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022784
UD FONT
環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。